

# 平瀬ダム視察会報告

2008年12月15日

先日は極寒の錦へわざわざありがとうございました。

今回の視察は中国新聞にも掲載され、社会に平瀬ダム問題を知ってもらい良いきっかけになったと思います。

嶋津暉之さんが水源連会員に向け、平瀬ダム視察会のレポートを作られたので、私がかまとめた問題点と合わせてご報告します。

全国で活動する水源開発問題連絡会の代表で、河川工学の先生である嶋津氏に視察して頂いた結果、大きく分けて2点の問題があるとのことでした。

第一に、平瀬ダムに頼りきった洪水対策では不十分であり、河道整備が必要であるということ。第二に、平瀬ダムに関するデータのほとんどが机上の計算であり、実際のデータによるものが少ないため再度検証が必要であるということです。

ダム事業は大規模な自然環境破壊を招き、山のミネラルがせき止められる為、海の弱体化を招きます。事の重大性を再認識させ、まずは正確な調査をするよう、要請して行きたいと思います。

先日の熊本県知事の脱ダム表明に次ぎ、近畿4知事が大戸川ダム白紙撤回を表明しました。時代は脱ダムの流れ。今回の視察で、来年度着工予定だった本体工事の許可を、県知事がまだ出していないという事も分かったので、追い風にしたいと思います。

今後も美しい海、川を守る為、頑張りましょう！  
美しい錦川を未来へ手渡す会 代表吉村健次

---

嶋津です。

12月5日、6日、岩国市の吉村健次さんから話がありましたので、平瀬ダム問題がある山口県の錦川に行ってきました。平瀬ダム問題はあまり知られていませんので、簡単に報告しておきます。

錦川は流域面積が885km<sup>2</sup>もある、二級水系には大きな川で、この川の本流・支流には総貯水容量9,500万m<sup>3</sup>の菅野ダムなど、五つのダムがあります。その上中流部に総貯水容量2,950万m<sup>3</sup>の平瀬ダムをさらにつくろうというのです。

水没予定地の21戸の移転は十数年前に終わり、付替国道等の関連工事が進められてきました。転流工の工事が来年3月で終わり、来年度から本体工事という予定になっていますが、財政難のためか、知事サイドからのゴーサインは出ていません。

錦川に沿って、清流線という名の第三セクターの一車両だけの鉄道が走っています。魚の絵などを描いた車両ですが、清流線という名のとおり、ダムがない支流からかなりの流量が流入するので、錦川はすばらしい清流です。ラフティングの仕事をされている吉村さんの話によれば、一級水系で日本一の清流になった尻別川よりもきれいだということです。特にダム予定地の直上流に流入する木谷川は、流域がブナの原生林なので、すばらしくきれいな川です。菅野ダム等を経由して流れてきた本流とこの木谷川の合流点を見ると、ダム経由の水がどんより濁っているのに対して、木谷川の水の透明さは際立っています。ダムが水質をひどく悪化させる要因であることはこの合流点にたてば一目瞭然です。

2005年9月の台風14号のときに錦川流域で2日間で414mmという未曾有の雨が降って、錦川周辺の各地で浸水がありました。この洪水被害で、平瀬ダムの建設に拍車がかかるようになりましたが、一方で、既設の菅野ダムからの放流が災害を助長したのではないかとこの疑念がもたれています。

一昨日、12月5日は現地調査、山口県のダム建設事務所（錦川総合開発事務所）との話し合い、地元での意見交換会、昨日、6日は現地視察会がありました。意見交換会、現地視察会には二人の県議会議員、市議会議員、新聞記者や、他の市民運動をされている方も参加して、平瀬ダム問題を考える輪が少しずつ広がってきています。

ここの運動の特徴は若い方が主力になっていることです。最初の現地調査と一緒に回った吉村さんなど7名の方はいずれも20歳代から30歳台前半です。皆さん、問題意識が旺盛で、気持ちの優しい方ばかりであって、大変頼もしく思いました。

私の方は吉村さんたちと共同して、平瀬ダムに頼った治水対策はかえって危険であることと、平瀬ダムなしの治水代替案の具体的内容を近いうちにまとめたいと思っています。なるべく早く運動を広げて何とか平瀬ダムの本体工事をストップさせ、日本一の清流を守りたいものです。

吉村さんは12月～3月は北海道に行って、スキー教室の先生をされるので、4月以降、皆様も是非、現地を訪れて、ラフティングを楽しみ、日本一の清流を味わってください。広島から1時間弱の岩国駅から車で1時間程度で現地に行くことができます。

是非、皆様も山口県の錦川へ！